



麻布幼稚園だより

令和5年12月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

きれいに色付いた柿の葉や桜の葉が園庭に舞い、子供たちと楽しく遊びます。早いもので12月、2学期を締めくくり、年末へと向かう月となりました。

先日は、「作品展」をご参観いただきありがとうございました。子供たち一人ひとりが表現することを楽しみ、思いを込めた作品をお家の方に観ていただいたことが、とてもうれしい様子でした。「すてきだね。」「楽しいね。」などの言葉を掛けられた子供たちは、認められ尊重されていることを実感し、豊かな気持ち、次へのやる気をもつことにつながっていると感じます。



近隣の保育園の5歳児が作品展を見に来園し、5歳児同士の交流をしました。麻布小学校の1年生には、交流をした後に作品を観てもらいました。5年生との交流もすることができました。園内では、異学年の子供たち同士の交流が様々な形で行われました。5歳児が友達と一緒に作り上げた場に遊びに来た3歳児、4歳児に合わせた言葉や態度で案内をしたり、一緒に遊んだりしている姿には感心しました。もちろん、どう接したらよいのかと戸惑う場面もありましたが、「〇〇ってお話するといいかもね。」と教師に声を掛けられ、自分なりに関わる姿が見られました。様々な場面や相手と関わる機会を今後も積み重ねていきたいと思えます。

今月は、「もちつき会」や「お楽しみ会」そして大掃除など、楽しいことや年末ならではの経験をしていきます。年末の「もちつき」は、日本の昔話にも出てくるお馴染みの伝統的な行事ですが、現代の生活の中ではなかなか体験できないものとなりました。

本園で実践を重ねている「国際理解教育につながる取組」において、「伝統的な行事や伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにする」ことは、大事にしていることの一つです。自国の文化に親しむこと、他国の友達の文化を知り違いを知ることは、自国の文化を大切にすること、他国の文化も大切にすること、そして様々な国の人と関わり、協力し合う力の基礎につながります。

麻布幼稚園では、幼児が季節の行事、伝統的な行事を楽しみ、親しめるような工夫をしています。また、他国の友達の国の話を聞き、互いの違いに気付き関心がもてるようにしています。

12月に行う「もちつき」には、蒸籠で蒸すための火、蒸した米の香り、米の粒が餅に変わっていく様子、大人や子供が集って大勢でもちつきをする楽しさなど、子供たちに体験をさせたいことが多くあります。蒸しあがったもち米を食べる、一人ひとりが杵で餅をつくなど、保護者の皆様のご協力で、子供たちが貴重な「もちつき」を体験できることに感謝いたします。

華やかなイルミネーションが素敵な季節です。年末年始には、それぞれの国ならではの装飾を楽しむ機会があるかもしれません。そのような中、ぜひ、日本の伝統的なものへも目を向け、年末年始ならではの飾りや食事、挨拶などといったものを子供たちと一緒に見たり体験したりする機会を楽しんでいただければと思います。